

点野野草地区の公園整備について

①点野野草地区の整備に係る背景

平成20年8月：淀川河川公園基本計画策定



H24年度：平成25年3月：

太間・点野野草地区公園整備計画策定

- ・ 淀川河川公園基本計画に基づき、河川公園の整備及び管理運営において、地域協議会及び全体協議会を設置、検討
- ・ 点野地区でワンドの環境改善、水辺環境の再生を位置づけ

太間・点野野草地区の整備方針

◇ワンドの環境や水辺の自然環境を活かしながら、川に親しむ場づくりを目指します

- 点野ワンドや点野砂州の自然環境を保全するとともに、植生管理等の活動への参加を通じて川に親しめる場づくりに取り組みます。
- 点野野草地区に水陸移行帯を整備し、自然環境の連続性を確保します。

◇運動施設の多目的利用の促進を図ります

- 他の運動施設よりも利用が少ない陸上トラック等の運動施設を対象に、従来の目的以外の利用ができるようにします。

◇サービスセンターとの一体的な活用を図ります

- 点野ワンドや点野砂州の自然環境を利用した学習プログラムの実施拠点として、サービスセンター等の活用を図ります。

◇淀川と地域の歴史を活かし、伝える公園づくりを目指します

- 茨田堤の碑などを通じて淀川と地域の歴史・文化とのつながりを知り、学べる公園となるようにします。

太間・点野野草地区の整備計画

■ 淀川河川公園基本計画におけるゾーニング



1. ワンドの環境改善
(ゾーニング計画の実現)
・点野ワンドにおける環境改善のための植生管理の実施(伐木、外来種の除去等)

2. 水辺環境の再生
(ゾーニング計画の実現・つながりの改善)
・点野砂州付近の高水敷の切り下げによる水辺との連続性・アクセス性の改善
・本川とワンドとの通水性の改善

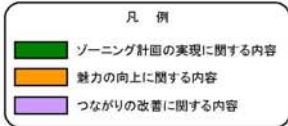
4. 運動施設の多目的利用の促進
(魅力の向上)
・陸上トラックの多目的利用の促進(グラウンドゴルフ等への利用目的の拡大)



6. サービスセンターの活用
(魅力の向上)
・点野ワンド、点野砂州における自然環境の学習プログラム実施拠点としてのサービスセンター等の有効活用の促進

5. 情報板の設置
(魅力の向上)
・茨田堤の碑など、淀川と地域の歴史の関わりや、市民団体等による環境づくり活動を紹介する情報板の設置

3. 水景施設の見直し
(魅力の向上)
・徒渉池の現有流水システムの廃止
・池の跡地利用の検討(湿水性植物の誘導の試行等)



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。
※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。

高水敷切り下げの先例：三島江野草地区からの課題

- 目的：高水敷の実験的な切り下げによる“たまり”の整備
(淀川らしい自然環境の再生を目的にする)
- 平成14年度：第1回切り下げ
→切り下げ後のモニタリングから、目標とした冠水頻度に達していないことが判明
- 平成18年度：第2回切り下げ
→冠水頻度がやや低く、自然な攪乱・更新の環境は十分ではない。
→粗放的管理から、在来種が減り、外来種が増加。
- 平成24年度三島江野草地区の開園
→オギを中心とした自然植生は回復しているが、利用はしにくい状況。
→活動による定期的な除草作業等の必要性

- 切り下げを行うと、外来種の急激な繁茂が想定され、切り下げ域を利用していくには市民参加も含めた管理が必須。

②点野野草地区の整備内容に係る検討経緯

H25年度：平成25年9月

中流左岸地域協議会にて

- ・点野地区を淀川中流左岸域の「みんなで育てる河川公園（仮称）」モデル地区として提案

H26年度：平成26年9月

第1回点野水辺づくりワークショップ

- ・点野地区の「良いところ」、「悪いところ」をテーマに、整備と管理について意見交換

H27年度：平成28年3月

点野水辺プロジェクト作戦会議開催

- ・中流左岸域を「親水」のモデル流域にする。
- ・水辺利用が盛んな点野地区で、本格的な親水空間づくりに必要な「切り下げ事業」実施するべく「点野水辺づくりプロジェクト」として推進

4. 「点野水辺プロジェクト」の始動

6

高水敷の切り下げ事業を実施するための方針を以下のように決定。

●公園整備計画の推進方針

公園管理者の思い ・水辺利用が盛んな点野地区で、本格的な親水空間づくりに必要な「切り下げ事業」をぜひ実施したい！　そこで...

方針

・「河川環境整備事業」として事業展開のフィールドになり得るかを点野地区で具体的にプロジェクトを実施することで検証

点野水辺プロジェクトとして再始動

●「点野水辺プロジェクト」の目標

「水辺利用プログラム」の実施を通じて

- ・地元住民が水辺の利用に熱心であることをアピール
- ・関係者（住民、市民団体、教育機関、自治体、公園管理者、河川管理者）の連携による水辺の安全な利用ができることをアピール

・「河川環境整備事業」の対象候補地として、点野地区の優位性をアピールし、事業実施につなげる。

H28年度 点野水辺プロジェクト実施

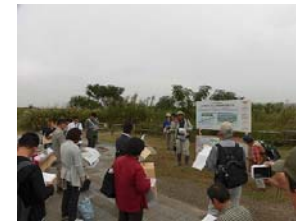
- ・ NPO等開催のイベントを協力・支援
(4月：水辺の集い、8月：淀川まるごと体験会
11月：茨田イチョウ祭り)
- ・ 点野水辺づくりワークショップ開催
(H28：3回実施)
第2回：これからの点野水辺プロジェクトの進め方と課題の共有
第3回：三島江野草地区から教えてもらうワークショップin点野
第4回：ガリバーマップin点野
(第1回は) H26実施

点野水辺プロジェクトの実施

【平成28年度】



淀川まるごと体験会への
協力・支援



点野水辺づくりワークショップ
(三島江地区の事例見学やガリバーマップ等)



H29年度 点野水辺プロジェクト実施

- ・ NPO等開催のイベントを協力・支援
(4月：水辺の集い、8月：淀川まるごと体験会
11月：茨田イチョウ祭り)
- ・ ネットワーク形成に向けた新規イベントの企画・実施
●11月：淀川河川公園点野野草地区外来種除去キャンペーン
- ・ 点野水辺づくりワークショップ開催
(H29：5回実施予定)
第5回：点野地区の環境と活動を考えてみよう
第6回：第5回ワークショップ意見の見える化について
第7回：見える化図面を現地を確認してみよう (ここまで終了)
第8回：これからの活動を考える
第9回：点野デザインのまとめ、ネットワークづくり

点野水辺プロジェクトの実施

【平成29年度】



淀川まるごと体験会への協力・支援



淀川河川公園点野野草地区外来種除去キャンペーンチラシ



③点野水辺プロジェクトが目指すもの 「川らしい利用」の実現

- かつての淀川にはあったが、現在の淀川ではみられない「川らしい利用」
- 点野野草地区では、地域の熱心な取り組みを通じて動き出した新しい時代の「川らしい利用」
- この「川らしい利用」を、新しい淀川ブランド(公園サービスの提供)として実現していきたい
(デザイン、プログラム、しくみ)



④点野水辺づくりワークショップによる検討経緯

第1回点野水辺づくりワークショップ（平成26年度実施） テーマ：点野地区の良いところ・悪いところ

ワークショップの開催状況



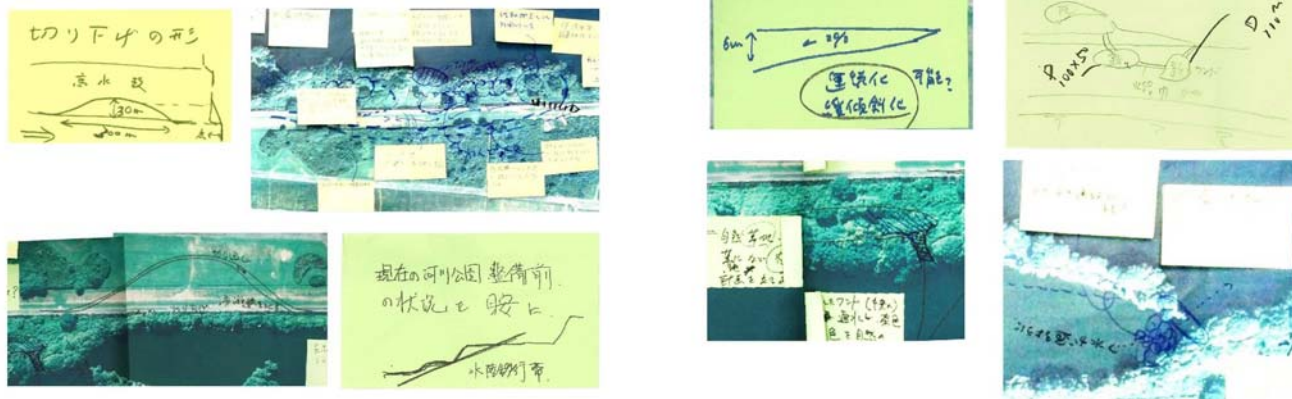
整備に関わるもの

- ① 水辺へのアプローチ
- ② 高水敷の切り下げ
- ③ たまりの浚渫
- ④ 本川～たまりの通水路
- ⑤ 船着場
- ⑥ 水制工の復元

維持管理に関わるもの

- ⑦ 外来種の駆除
- ⑧ 漂着ごみの処分
- ⑨ 倒木の撤去
- ⑩ 安全性の確保

切り下げ範囲等の具体的なアイデア等



第2回点野水辺づくりワークショップ（平成28年度実施） テーマ：これからの点野水辺プロジェクトの進め方と課題の共有

1. 点野水辺プロジェクトを定義

●淀川河川公園における点野地区の位置付け

- ・淀川の中でほぼ唯一、安全に親水活動ができる場所
- ・「高水敷切り下げ事業」として公園整備計画に位置付けられる場
- ・地元の市民団体、地域住民の参加実績が豊富

2. 点野水辺プロジェクトの進め方

「点野プロジェクト」の青写真は、実現可能性を模索しながら、
市民参加で皆さんと取り組んでいく！

3. 進める上での課題

- 具体的な検討(基本設計)は来年以降
- 基本設計の前に、以下の2点を行う必要がある
 - 測量(具体的な地形:細かな横断面、縦断面を踏まえて検討)
 - 水理計算(低水護岸の機能は必ず必要。位置を後退させたり、隠し護岸等の手法がとれるかを検証するため)

■ ワークショップでの意見から

- ケーススタディを検討したい、学びたい。
- これまでの整備の個所など見てみたい、等々の意見



- 三島江野草地区＝河川公園内での切り下げの先進事例
- 実際の切り下げの経緯や結果を見てみよう！

第3回点野水辺づくりワークショップ（平成28年度実施）

テーマ：三島江野草地区から教えてもらうワークショップin点野

1. 三島江野草地区（切り下げ先進地）の見学会

（綾先生、酒井河川レンジャーより、三島江野草地区の経緯と現状について）



2. 点野野草地区にて、屋外ワークショップ

1) 三島江野草地区の見学の感想

2) 感想から出た3つテーマ

①親水空間、②整備・安全管理、③活動・管理について意見、提案



第3回ワークショップを終えて

親水空間

- ・三島江とは違う点野の切り下げの目的は?
- 人の利用と自然再生の両立
- 人の利用と維持管理を前提とした自然環境 等

整備・ 安全管理

- ・ソフト(自己責任という意識付け)の裏づけが大事
- ・利用ルールも必要 等

活動・管理

- ・地域をもっと巻きこむ
(市や国との協働、食のイベント、イベントを小出しに)
- ・大学との連携 等

例えば下のような課題が……

具体的な空間のデザイン
利用ルールの検討にあたって、
(昔とは違う……)

- 具体的には「誰が」使う?
- 利用のためにはどんな空間の要素があればいい?

地域をもっと巻きこむ
大学との連携を強めるにあたって

- 具体的にどんな人がいる?(協力してくれそうな人?)
- 誰にどんな協力を頼んだらいい?

第4回点野水辺づくりワークショップ（平成28年度実施） テーマ：ガリバーマップin点野

- ガリバー（巨人）になったつもりで、考えてみよう！
検討テーマ①：点野地区が提供するサービス
（楽しみや喜び等）
検討テーマ②：地域のつながりを強化する方法



ガリバーマップin点野の様子



第4回ワークショップを終えて

誰と	こんなつながりを作っていきます
地域の事業者 (ホームセンター、神戸屋、 釣具店 等)	・草刈・水遊び ・道具の購入、企業技術のPR 等
小中学校	・自然体験学習の場としての活用、親水活動としての利用 ・若者同士の連携 等
大学	・点野を活用したビジネスプラン ・研究、イベントでの協力、場の活用等 (摂南大学・府大高専・大阪通信大は連携)
市民・地域の人	・河川クリーン作戦等の企画、防災学習の場としての活用 ・コンサート、食のイベント等

ネットワーク(まちなかプラットフォーム)を形成したい

⑤平成29年度点野水辺プロジェクトの進め方

点野水辺プロジェクト（平成29年度の予定）

点野地区での活動プログラム

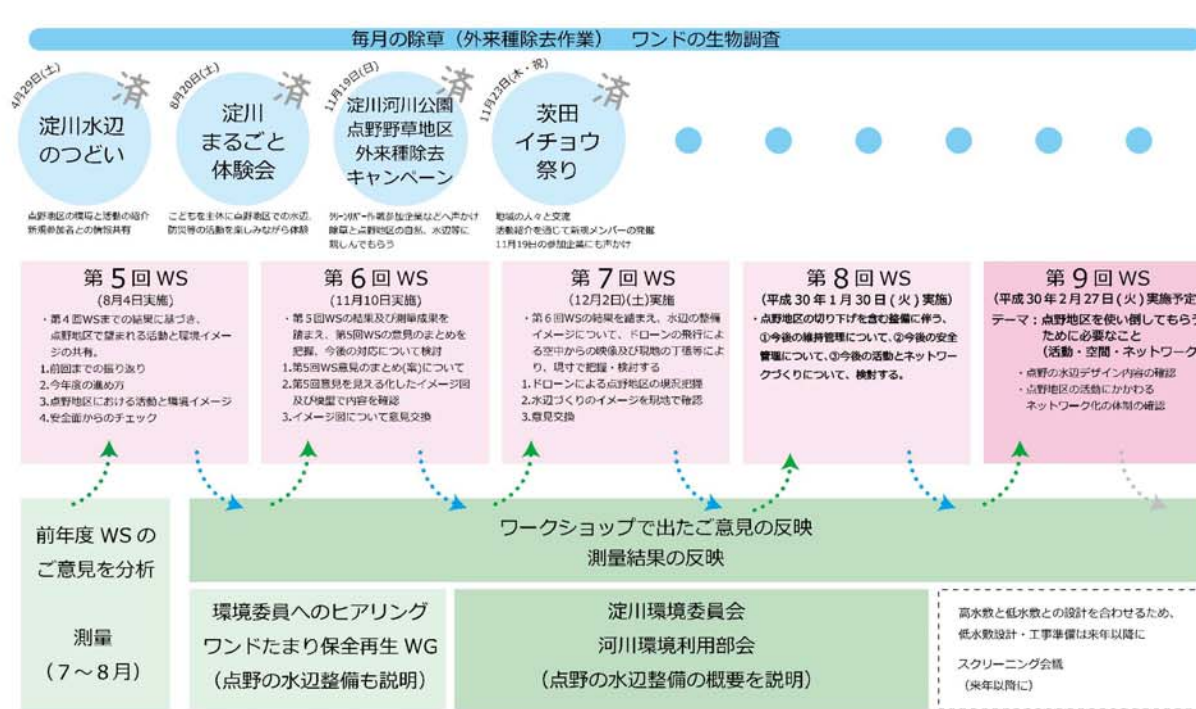
- 【目的】
- ・点野地区で活動する人（プレイヤー）を増やす
 - ・点野地区の応援団を増やす
 - ・点野地区を中心としたネットワークのもとを作る

点野水辺づくりワークショップ

- 【目的】
- ・点野で活動する人達で、空間・活動イメージを共有
 - ・市民参加で点野地区の水辺デザイン
 - ・点野地区を中心としたネットワークのもとを作る

設計等スケジュール

- ・高水敷基本プラン検討
- ・低水敷実施設計・工事準備
- ・環境委員への相談



点野地区の活動ネットワークづくり！



【しくみと役割づくり】

みんなの点野地区水辺デザイン！



第5回点野水辺づくりワークショップ（平成29年度実施）

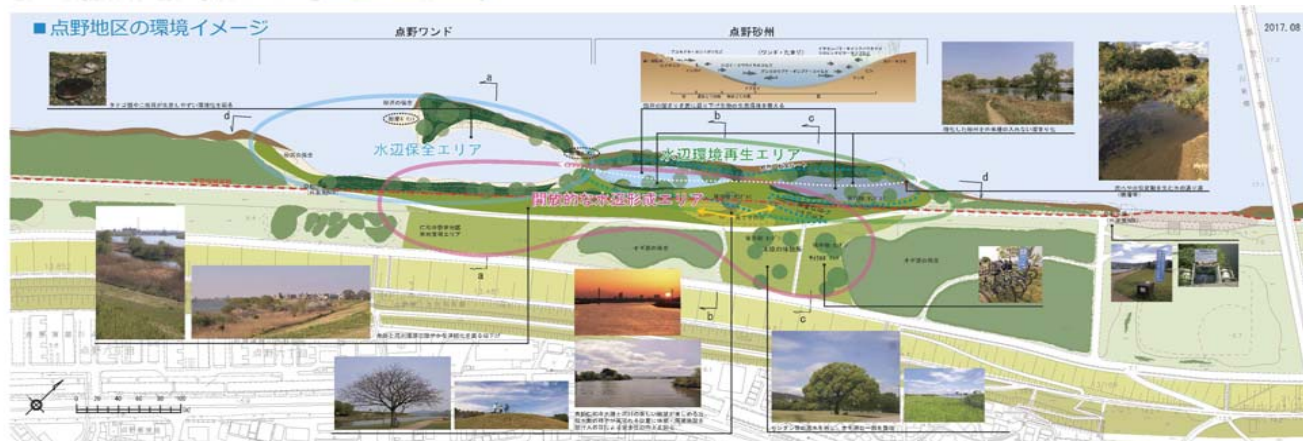
テーマ：点野地区の環境と活動を考えてみよう



点野地区の活動イメージ

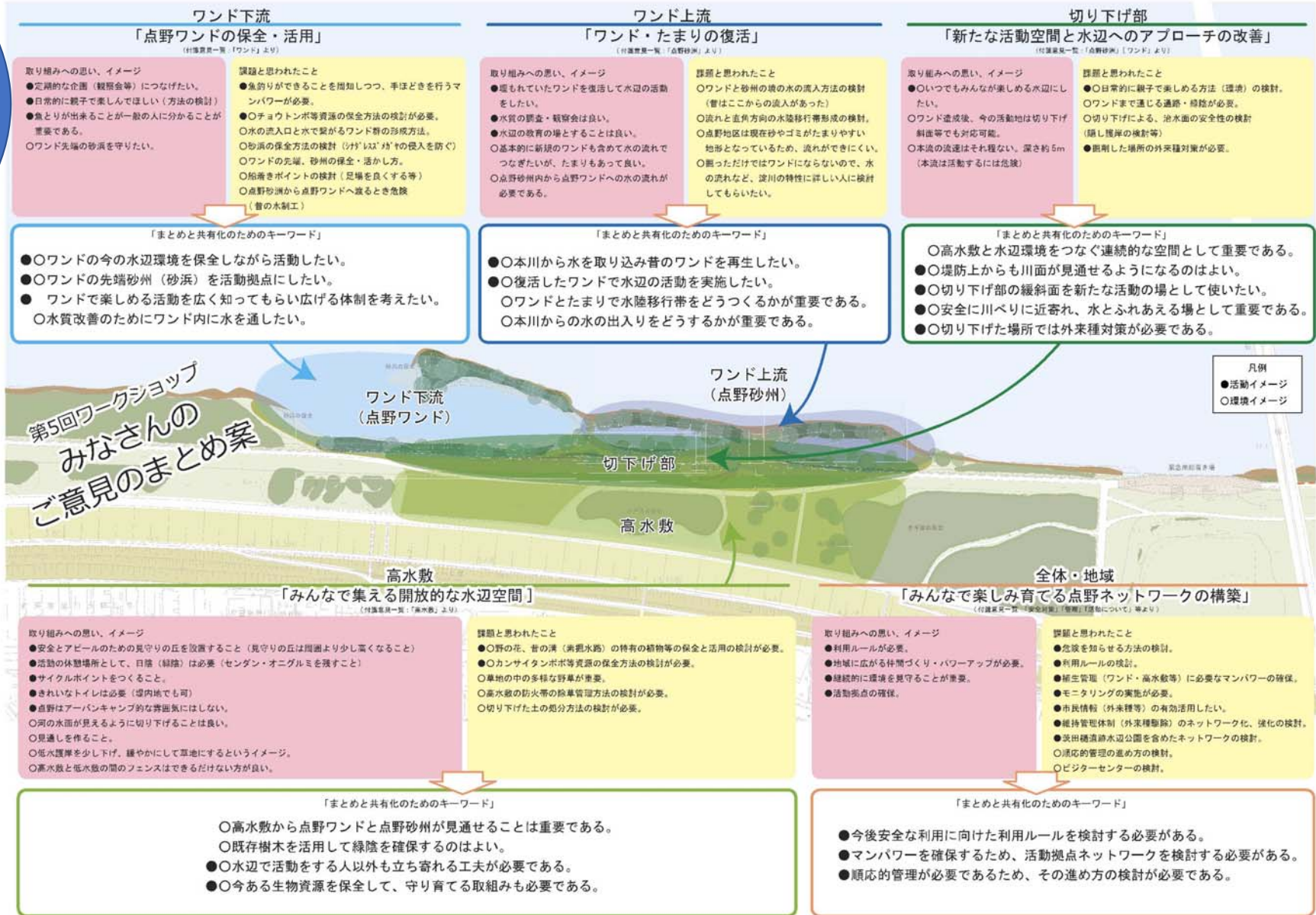
・イメージの課題となる
ところはどこか？

・イメージに共感できる
ところはどこか？



点野地区の環境イメージを検討

第5回 ワークショップを 終えて



第6回点野水辺づくりワークショップ（平成29年度実施） テーマ：第5回ワークショップ意見の見える化について

～ みんなで楽しめる近づきやすい水辺空間 ～

点野地区全体のコンセプトを決めよう

空間別まとめと共有化のためのキーワードは適切か？

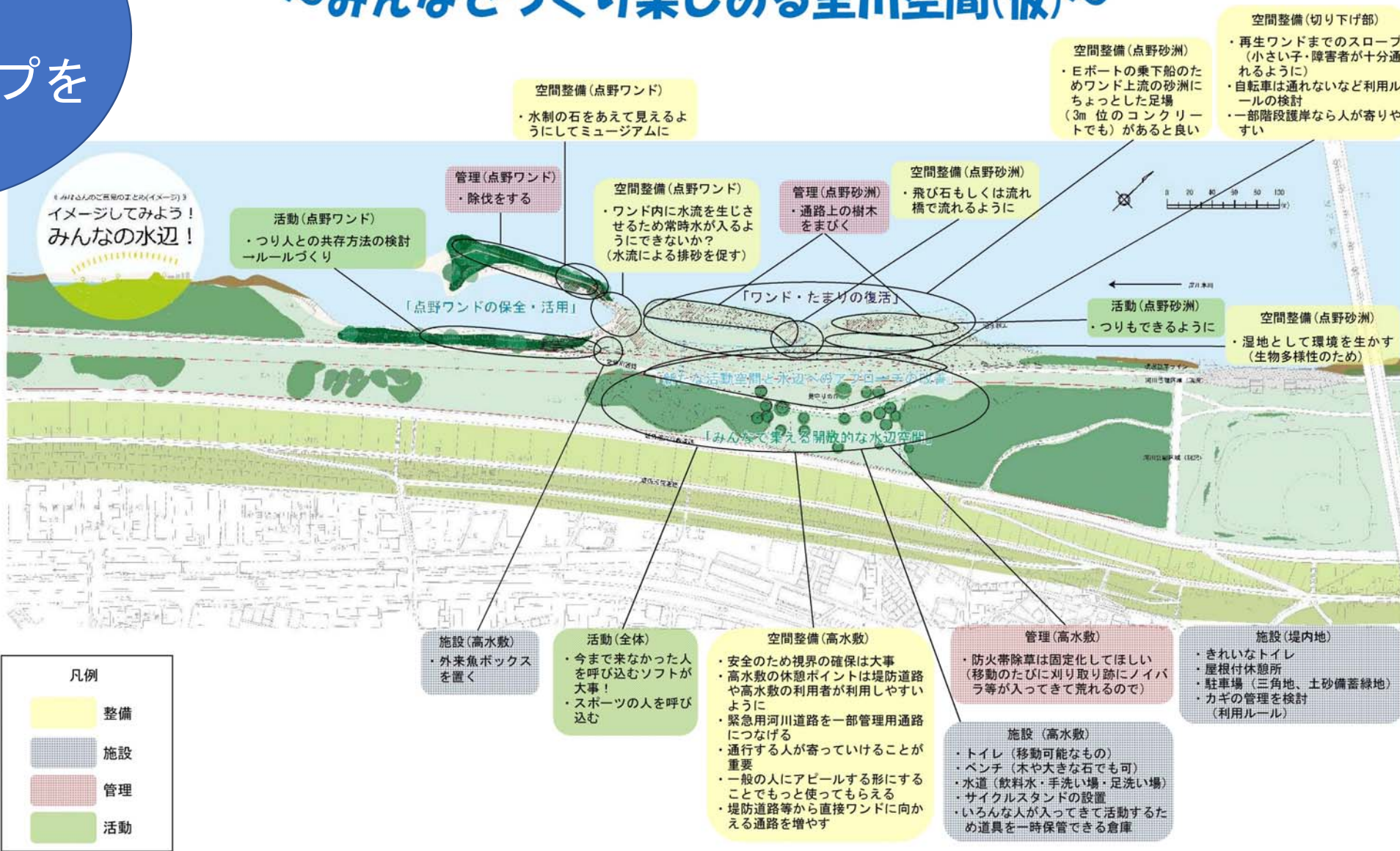
意見をもとに見える化したイメージ図の基本的考え方

点野水辺づくりコンセプト	空間区分	第5回WS意見のまとめ（案） まとめと共有化のためのキーワード	空間イメージ	みなさんの御意見をもとに見える化したイメージ図の基本的考え方
【点野水辺づくりの目標像】 「…みんなが楽しめる近づきやすい水辺空間」	環境（水辺）を活かして活動する	ワンド下流（点野ワンド） ・ワンドの今の水辺環境を保全しながら活動したい。 ・ワンドの先端砂州（砂浜）を活動拠点にしたい。 ・ワンドで楽しめる活動を広く知ってもらい、広げる体制を考えたい。 ・水質改善のためにワンド内に水を通したい。	点野ワンドの保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> 点野ワンドは現在の水辺環境（砂浜含む）を保全しながらの活動を考える。 旧水制工に渡る部分は増水時に水が入ってくるように少し高さを抑える。 旧水制工に渡る部分は安全に渡れる方法を今後設計で検討する。 旧水制工上の移動は、草刈り等の維持管理をしながら動線を確保する。 本川からワンドに水をどのように通すかは今後の設計で検討する。
	ワンド上流（点野砂州）	・本川から水を取り込み再びワンドを再生したい。 ・復活したワンドの水辺の活用を実施したい。 ・ワンドとたまりで水陸移行帯をどうつくるかが重要。 ・本川からの水の出入りをどうするかが重要。	ワンド・たまりの復活	<ul style="list-style-type: none"> 旧水制工の位置をふまえてワンドとたまりを再生する。 再生したワンドとたまりの水辺環境を活かした活動を考える。 上流側のたまりは増水時に水が入ってくるように少し高さを抑える。 下流側のワンドは本川からの流入と流出を確保する。 本川からワンドやたまりに水をどのように通すかは今後の設計で検討する。
	活動するための環境を整える	高水敷→低水敷（切り下げ部） ・高水敷と水辺環境をつなぐ連続的な空間として重要。 ・堤防上からも川面が見通せるようになるのはよい。 ・切り下げ部の緩斜面を新たな活動の場として使いたい。 ・安全に川べりに近寄れ、水とふれあえる場として重要。 ・切り下げた場所では外来種対策が必要。	新たな活動空間と水辺へのアプローチの改善	<ul style="list-style-type: none"> 川面が堤防からも見えるように、高水敷を切り下げて連続した斜面にする。 どこからでも水辺へアプローチできるように緩やかな傾斜で切り下げる。 新たな活動空間として活用できるよう緩斜地の草地広場とし、水辺の活動の安全を見守ることができる視点として、周辺より少し高い「見守りの丘」を設ける。 「見守りの丘」が堤防側からのアイキャッチとなり、一般公園利用者が近寄り水辺と親しむきっかけとなるような案内や解説等の情報提供を行う。
	高水敷	・高水敷から点野ワンドと点野砂州が見通せることは重要。 ・既存樹木を活用して緑陰を確保するのはよい。 ・水辺で活動をする人以外も立ち寄れる工夫が必要。 ・今ある生物資源を保全して、守り育てる取組みも必要。	みんなで集える開放的な水辺空間	<ul style="list-style-type: none"> オギ原は点野ワンドと点野砂州を見通すために一部を刈り払い、川を感じられる開放的な水辺空間とする。 既存樹木（センダン）を活用して本線の休憩スペースをつくる。 サイクルポイント等により一般公園利用者も立ち寄りやすい空間をつくる。 水辺利用に限らず様々なイベントも開催できる空間とする。
全体・地域	<ul style="list-style-type: none"> 今後安全な利用に向けた利用ルールを検討する必要がある。 マンパワーを確保するため、活動拠点やネットワークの検討が必要。 順応的管理が必要であるため、その進め方の検討が必要。 	みんなで楽しみ育てるネットワークの構築	<p>※活動内容や活動体制の充実に検討（今後より検討が必要な項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後安全な利用に向けた利用ルールを検討する。 マンパワーを確保するため、活動拠点や活動ネットワークを検討する。 順応的管理を誰がどのように行うか、検討する。 	

第6回ワークショップを終えて

【点野水辺づくりの目標像】

～みんなできつくり楽しめる里川空間(仮)～



～みんなできつくり楽しめる里川空間(仮)～

(意見の見える化イメージ)

- ・旧水制工の位置をふまえてワンドとたまりを再生する。
- ・再生したワンドとたまりの水辺環境を活かした活動を考える。
- ・上流側のたまりは増水時に水が入ってくるように少し高さを抑える。
- ・下流側のワンドは本川からの流入と流出口を確保する。
- ・本川からワンド やたまりに水をどのように通すかは今後の設計で検討する。

- ・点野ワンドは現在の水辺環境(砂浜含む)を保全しながらの活動を考える。
- ・旧水制工に渡る部分は増水時に水が入ってくるように少し高さを抑える。
- ・旧水制工に渡る部分は安全に渡れる方法を今後設計で検討する。
- ・旧水制工上の移動は、草刈り等の維持管理をしながら動線を確保する。
- ・本川からワンドに水をどのように通すかは今後の設計で検討する。



- ・川面が堤防からも見えるように、高水敷を切り下げて連続した斜面にする。
- ・どこからでも水辺へアプローチできるように緩やかな傾斜で切り下げる。
- ・新たな活動空間として活用できるよう緩傾斜の草地広場とし、水辺の活動の安全を見守ることができる視点場として、周辺より少し小高い「見守りの丘」を設ける。
- ・「見守りの丘」が堤防側からのアイキャッチとなり、一般公園利用者が近寄り水辺と親しむきっかけとなるような案内や解説等の情報提供を行う。

- ・オギ原は点野ワンドと点野砂州を見通すために一部を刈り払い、川を感じられる開放的な水辺空間とする。
- ・既存樹木(センダン)を活用して木陰の休憩スペースをつくる。
- ・サイクルポイント等により一般公園利用者も立寄りやすい空間をつくる。
- ・水辺利用に限らず様々なイベントも開催できる空間とする。

- ・みんなで安全に水に入って遊べる環境を目指す。
- ・点野地区の水辺空間を支えるマンパワーを増やすため、寝屋川市、企業、点野自治会、一般の人、子供、小中学校などの協力関係(ネットワーク)を作る。
- ・協力関係を作るため、一般の人が入ってきやすいハードルの低いイベントを考え実施する。
- ・一般の人が安全に点野地区を楽しむため、注意看板や目印(樺等)利用ルールは必要のため、今後も検討を続ける。
- ・順応的管理を誰がどのように行うか、検討する。

第7回点野水辺づくりワークショップ（平成29年度実施） テーマ：点野地区の水辺デザインを実感してみよう！

①ドローンによる点野地区の現況把握



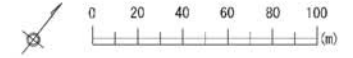
②水辺の整備イメージの現地確認



第7回 ワークショップを 終えて

【みんなの想像のまじり合い】
イメージしてみよう！
みんなの水辺！

【点野水辺づくりの目標像】
「みんなでつくり楽しめる里川空間（仮）」



新しい水辺空間が
できると・・・

活動

- ・ カヌーイベントなどもできるかも
- ・ 点野地区を上・下流を線としてつなげたい
- ・ 見守りの丘に人が近寄りやすい園路があると良い

空間作り

- ・ 水辺の草地除草は市民の担当でどうか？
- ・ これまでの知見や経験から外来種の対応をしたい
- ・ 整備があるとしても動植物は守って行きたい

ネットワークづくり

- ・ 摂津市との連携も考えたい
- ・ 太間地区でスポーツをやっている人などを呼び込みたい
- ・ 寝屋川市など周辺市町村も仲間になってほしい

第8回点野水辺づくりワークショップ（平成29年度実施） テーマ：みんなでつくり、楽しめる里川空間（仮）の実現に向けて

第8回
ワーク
ショップを
終えて

どんな環境で
どれくらいの
広さが必要？

- ・使ってもらいやすい＝安全に水に入って遊べる環境を目指したい
- ・自然や形は大規模改修が入る前（昭和40年代）の点野の環境イメージ
- ・水辺にはトンボなどの昆虫が見られ、野鳥も集まっている
- ・外来種全てはとりきれないが、環境を大きく変える外来種は残さない様に
- ・点野地区の水辺空間を支えるマンパワーを増やそう

私たちのほかに
どんな人たちが
必要？

- ・入ってきてほしいのは企業、点野自治会、一般の人、子供、小中学校など
- ・地元との連携を深めるために寝屋川市と協力関係を作りたい
- ・もっと企業に入って来てもらうため、企業の参加しやすいタイミングや目的を作る
- ・もっと一般の人が入ってきやすいハードルの低いイベントを考える
- ・点野での活動を広める方法を考える
- ・ネットワークの核を作っておくとメリットがある
(子供の水辺サポートセンターなど)

どんなことをし
たらいい？

- ・一般の人が安全に点野地区を楽しむためには
①注意看板 ②目印は必要
- ・「見守り隊」のようなものがあると良い
- ・水辺空間のあり方はいろいろあるので、事例等を見てみたい

第9回点野水辺づくりワークショップ（平成29年度実施） テーマ：点野地区を使いこなしてもらうために必要なこと （活動・空間・ネットワーク）

平成30年2月27日（火） 18：30～20：30

摂南大学会議室 7号館7階 第3会議室 実施予定



⑥今後の課題

活動のネットワーク化の課題

- ・ 寝屋川市等公共団体との連携体制の構築
- ・ 学校団体・大学教育部局との連携（寝屋川市を手はじめに）
- ・ 企業との連携の拡大・推進
- ・ 活動の拠点のあり方の検討

維持管理・モニタリング体制の課題

- ・ モニタリングの方法検討（役割分担・情報共有）のあり方等（行政と市民と大学等）
- ・ 点野地区での順応的管理のあり方

安全管理の課題

- ・ 一般の人でも安全に使いやすい危険区域の明示方法（柵等ハード面）
- ・ 利用ルールの設定等運用方法（ソフト面）

⑦今後の進め方

平成29年度

- 点野地区の水辺デザイン
(基本設計レベル)
- まちなか連携プラットフォーム形成
(ネットワークの形成)

平成30年度

- 実施設計
(水域・高水敷)
- まちなか連携プラットフォーム拡大
(ネットワークの拡大)

平成31年度以降

- 整備工事
(水域・高水敷)
- まちなか連携プラットフォーム拡大
(ネットワークの拡大)

市民参加による
運営管理

市民参加 (調整)